

4. 「社会問題」と逸脱—規範との相克—

4-1. 逸脱とは何か？

一般的に社会学で逸脱[deviance]というと・・・

集団や社会の大多数の成員が守る規範や価値に同調しない行為形態。(Giddens[1989=1992:用語解説 1])
→規範[norm]から外れることを指す。

※正常[the normal]と異常[the abnormal]／病理[the pathological]という区別が前提となる。

ここでもう一度、マートンのアノミー論を振り返ってみよう。

「・・・文化構造と社会構造がうまく統合されないとき、規範の崩壊へ、すなわち無規制状態へと向かわせる緊張[strain]が存在する (Merton[1969:163; 苦訳])」。

※マートンによるモデルは、結局のところ規範からの偏差を逸脱とし、その様式、あるいは規範への同調[conformity]の類型をまとめたものと考えられる。

4-2. レイベリング理論[labeling theory]—ベッカーをもとに—

上記のようなマートン流の逸脱論が流布していた時代に、反抗をみせたのが、ベッカーを嚆矢とするレイベリング理論であった。

Becker, Howard S. 1963 *Outsiders : studies in the sociology of deviance*, Free Press =1978 村上直之訳『アウトサイダーズ』新泉社

□アウトサイダーとは

ある規則が執行された場合、それに違反したとおぼしい人物は、特殊な人間—集団合意にもとづくもろもろの規則にのっとった生き方の期待できない人間—と考えられる。つまり彼は、アウトサイダーと見なされるのである。:7

□逸脱の諸定義

容易に観察されることだが、異なる集団は、たがいに異なることがらを逸脱と判定する。:10

①統計学的定義

標準からの極度のズレ

z. b. トウモロコシの茎の長さ／女性の髪／人間の利き手

問題点：価値に関する数多くの問題点を度外視することによって、問題を単純化している

②病理[pathology]／「疾患」[disease]；医学的定義

器官や機能の障害＝病理

問題点：何が健全な行動を構成するかという点に関して、人々の意見は様々に分かれる

z. b. 精神疾患と身体疾患のアナロジー

※医学的比喻というものは、統計学的見解と同様、われわれの認識の枠を狭める。:14

→逸脱の発生源を個人の内部に位置づけ、こうして判定それ自体を現象の重要部分として捉えることを阻む

③構造機能主義的定義

一社会の全体、あるいはその特定領域の安定性を崩壊に導くプロセス

z. b. 社会の安定性を促進させる諸要素（機能）とそれを崩壊させる諸要素（逆機能）

問題点：社会あるいは社会集団にとって、何が機能的であり、何が逆機能的であるかを確定するのは、理論上はともかくとして実践的には極めて困難

cf. Merton の機能の定義（総結果の正味の差引勘定）

※いかなる規則が執行されるのか、どんな人々がレッテルを貼られるのかは政治的な問題

□逸脱と他者の反応

これまでの定義をまとめると、逸脱とはなんらかの合意にもとづく規則に対する違反であると定義される

→しかしこの見解は、逸脱に関する中心的事実、すなわち逸脱は社会によって生み出されるという事実を無視している

☆ベッカーによる逸脱の定義

社会集団は、これを犯せば逸脱となるような規則をもうけ、それを特定の人々に適用し、彼らにアウトサイダーのレッテルを貼ることによって、逸脱を生み出すのである。この観点からすれば、逸脱とは人間の行為の性質ではなくして、むしろ、他者によってこの規則と制裁とが「違反者」に適用された結果なのである。逸脱者とは首尾よくこのレッテルを貼られた人間のことであり、また、逸脱行動とは人々によってこのレッテルを貼られた行動のことである。：17

※逸脱とは、ある人間の行為に対する**他者による反応の結果**であり、逸脱の研究者は、逸脱者というレッテルを貼られた人々を研究する際、そのカテゴリーに、実際に規則違反をした人々を全て組み入れられると仮定はできない。

・逸脱者の共通点

逸脱者というレッテルを貼られた人間の共通点とは、そのレッテル、そしてアウトサイダーの烙印を押された経験の二つである。

→ある行為が逸脱行為であるか否かは、他の人々がそれにどのように反応するかをまたなければならない。

・逸脱への他者の反応への注意

①時局に応じて反応は変化すること

②誰によって行われ、誰が危害を被ったと感じているか

③事後性＝結果の問題

※特に、当該行為が逸脱行為としてカテゴリー化しうるか否かは、他者の反応が起こった後でなければ決定しえない。

□誰の規則か？

アウトサイダーのもうひとつの含意

→逸脱のレッテルを貼られた者の視点からすれば、その規則をつくった人々がアウトサイダー

z. b. 禁酒法時代のイタリア移民

自分はアウトサイダーたちによって規則を強制されたのだと憤慨している場合があるのだ。：27

- ・規則を適用（強制）できるのは誰か、原因とは何か

規則をつくり、それを他の人々に適用する力量の差異は、（法律上においても、法の管轄外においても）本質的には権力の差異である。：29

□ベッカーによる逸脱行動の四類型

	順応的行動	規則違反行動
逸脱と認定された行動	誤って告発された行動	正真正銘の逸脱
逸脱と認定されない行動	同調行動	隠れた逸脱

cf. 暗数[dark number]問題

※公式統計と、実際の件数との間の食い違い

□逸脱の継時的モデル

- ・同時的モデル

z. b. 多変量解析法

→当該現象の発生を決定するすべての要因が同時的に作用するという仮説

※しかし実際問題として、あらゆる原因が同時に作用することはない

- ・継時的モデル

われわれが必要とするのは、行動様式が順序だって継起的に発達するという事実を考慮に入れたモデルなのである。：35

z. b. マリファナ喫煙者：59-114

- ・逸脱経歴[career]：逸脱三段階説

第一段階：非同調的行為の遂行

→これまでの研究では、動機づけを探し求めてきた、つまり逸脱者と非逸脱者の違いは、動機づけの本質に根ざしているとしてきた

z. b. 「彼が自分の意図を十分に意識していようがしていまいが、その背後には彼をつき動かした動機があるはずだ」という言い方

→心理学では、それを内的なものとして、社会学では、社会的に構造化されたもの（緊張など）として言及

※しかしそれを根拠づけるものはない。逸脱の動機付けになるようなものは、ほとんどの人々に経験されるもの。

ベッカーの解答：コミットメント[commitment]の問題だとする

→コミットメントとは、一定の関心が、形態的にそれと無縁な行動方針の遂行に関与していく過程

伝統的な社会とのコミットメントを回避する方法

- ①伝統的社会との絆を振り切る
- ②中和化（自己正当化）

第二段階：公然と逸脱者のレッテルを貼られる経験

そのもっとも重大な影響は、その人間の公的なアイデンティティの決定的な変化である。・・・個人は新しい地位につく。彼はかつて他人からそう思われていたのとは別の人物として摘発されるのである。：47

※この経験は、自分を「逸脱者」として理解することを促すと同時に、社会からの反応をも生み出す。

このようなレッテルを貼られる経験は、一種の**自己成就的予言**

→「彼／彼女は逸脱者である」という予言により、本当の逸脱者となる

第三段階：組織化された逸脱集団への加入

逸脱的な下位文化の誕生と同調＝「正常な」人々とのさらなる非同調

逸脱集団への加入の二つの結果

①さらなる合理化（正当化）

②最小限の障害で逸脱行動を遂行する方法の学習

※ここまでが、『アウトサイダーズ』の理論編で、この後、先述のマリファナ使用者と、ダンスミュージシャン（ジャズバンド）の事例研究がなされています。興味のある人は、この事例だけ読んでも面白いと思いますよ。

【参考文献】

Giddens, Anthony 1989 *Sociology*, Polity Press. =1992 松尾他訳『社会学』而立書房。

Crothers, Charles 1987 *Robert K. Merton*, Ellis Horwood Limited =1993 中野正大・金子雅彦訳『マー
トンの社会学』世界思想社

Merton, Robert King 1968 *Social Structure and Social Theory*, Free Press. =1969 森他訳『社会
理論と社会構造』みすず書房